別紙

令和５年度　学力向上プラン

学校名　　中央区立明石小学校

学校の教育目標

○進んで学びよく考える子	○力を合わせやりぬく子
○やさしく思いやりのある子	○健康でたくましい子

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

○基礎基本の定着（明石スタンダードに基づく学習規律、朝学習、夕やけ教室）
○思考力・判断力・表現力等の育成（児童主体の学習、言語活動を重視した授業）
○毎時間の授業の充実（分かる授業、できる授業、楽しい授業）

令和５年度「学習力サポートテスト」や令和４年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国　語	○「令和５年度学習力サポートテスト」において、正答率は全国の平均を４年は10.6ポイント、5年は10.6ポイント、6年は8.7ポイント上回っている。また、4年は1.3ポイント、5年は1.5ポイント区の平均を上回っている。 ▲「話すこと・聞くこと」に課題がある。最後まで話を聞いて質問をしたり、自分の意見に自信をもって伝えたりする力が弱い。	○授業における自主的な学習態度と、家庭での学習習慣が身についている。 ○朝の読書タイムや年２回の読書旬間の充実により、読書に親しむ習慣が身に付いている。 ▲自信をもって自分の考えを相手に伝わるようにはっきり話す習慣が定着していない。
算数・数学	○令和5年度学習力サポートテスト」において、正答率は全国の平均を4年生は11.9ポイント、5年生が13.8ポイント、6年生が16.9ポイント上回っている。 ▲自分の考えを説明したり、発展問題に苦手意識を感じたりする児童がいる。	○習熟度別少人数指導や「放課後の個別指導」での補充学習の徹底により、個に応じた指導の効果が表れている。 ○授業開始の３分間、単元に関係する計算テストを継続して行うことにより、基本的な計算力が定着している。 ▲文章問題を読み取り、読み取ったことを整理して線分図や図に表したり、根拠の説明をノートに記述したりするなどの指導が不足している。
社　会	○「令和５年度学習力サポートテスト」において、正答率は全国の平均を４年は6.2ポイント、５年は13.2ポイント、６年は12.4ポイント上回っている。５年は0.7ポイント、６年は2.9ポイント区の平均も上回っている。 ▲資料を適切に読み取り、資料から考えたり、調べたことを既存の知識と比較、関連付けて思考したりすることに課題がある。	○実際に見学をしたり、タブレットを活用して調べたりする等、社会的事象に関心をもち、意欲的に学習に取り組めている。 ▲資料の読み取り方や、調べたことをまとめる具体的な方法の指導が十分できていない。

理　科	○「令和５年度学習力サポートテスト」において、正答率は全国の平均を４年は6.5ポイント、５年は9.3ポイント６年は7.1ポイント全国の平均を上回っている。４年は1.2ポイント、５年は3.1ポイント６年は2.2ポイント区の平均を上回っている。 ▲内容別正答率で見ると４～６年生の中で５つの内容で区の平均正答率を下回っており、５つ中４つが「生命・地球」領域である。	○校内研究を通して、興味・関心をもって理科の学習に取り組めるような単元開発や、環境整備に努め､実験･観察を計画的かつ確実に行ってきた成果が見られる。 ▲実験･観察の過程や結果から考察したことを記述するなど、思考を深めるノート指導が十分できていない。
英　語	○「令和５年度学習力サポートテスト」において、６年は全国の平均を4.9ポイント、区の平均を0.8ポイント上回っている。 ○英語に関心をもち、楽しみながら学習に取り組み、自分の思いを伝えたり、聞き取ったりするコミュニケーション力は育っている。 ▲聞くことの分野では区の平均を0.2下回っている。	○ＡＬＴと打ち合わせを行い、連携を図りながら、授業を進めることができている。 ▲自分のことを伝えることに集中し、相手の考えを聞くことができないでいる。
体育・ 保健体育	○全学年、体力テストの合計得点は全国平均、都平均と同じもしくは高くなっている。 ▲男子の長座体前屈（体の柔らかさ）に課題がある。 ▲男女問わず、全学年でソフトボール投げに課題がある。	○マイスクールスポーツの効果として巧緻性の高まりが感じられる。 ○休み時間に積極的に身体を動かしていることが影響している。 ▲体つくり運動で継続して体の柔軟性を高める運動場面が少ない。 ▲日頃から、ボールを投げる機会が少ない。

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	○「令和５年度学習力サポートテスト」において、４、５年生は全国の平均を１０ポイント以上上回っていたので、「令和６年度学習力サポートテスト」でも継続する。また、６年生は平均を１０ポイント以上上回るようにする。
	算数・数学	○「令和６年度学習力サポートテスト」において、全ての実施学年で、全国の平均を１０ポイント以上、上回るようにする。 ○４年生では「たし算・ひき算」５年生では「億と兆・がい数の表し方」の正答率を全国平均の１０ポイント以上上回るようにする。
	社会	○「令和６年度学習力サポートテスト」において、全ての実施学年で、全国の平均を１０ポイント以上、上回るようにする。 ○「活用」の部分の問題について、本年度に引き続き、全国の平均を上回るようにする。
	理科	○「令和６年度学習力サポートテスト」において、全ての実施学年で、全国の平均を１０ポイント以上、上回るようにする。 ○「生命・地球」領域の内容に関する問題の正答率が、全ての内容において区の平均正答率上回るようにする。
	英語	○「令和６年度学習力サポートテスト」において、６学年で、全国の平均を１０ポイント以上、上回るようにする。 ○「聞くこと」に関する全ての内容において、区の平均を上回るようにする。
	体育・保健体育	○「全国新体力テスト」において、男女ともにソフトボール投げが全国の平均を上回るようにする。
②授業改善		・年間を通じて、児童の主体的、対話的で深い学びを促す授業づくりを実践する。 ・年間を通じて、考えたことをノートに分かりやすく表現するノート指導の徹底を図る。 ・タブレット端末などの ICT 機器を効果的に活用した授業を展開（個別学習、グループ学習、一斉学習）で個の学びが深まる授業展開の工夫を行う。 ・話し合い活動の場を増やし、コミュニケーション能力を上げる。
③家庭との連携		・４月、７月、１２月の３回の個人面談、年間２回の保護者会等を活用し、家庭と十分に連絡を取り合って、家庭学習を確実に行うようにするとともにその定着を図る。
④体力向上		・マイスクールスポーツである「なわとび（短縄・長縄）を活用する。 ・中休みや昼休みに外遊び時間の確保をする。 ・体育学習発表会や体力向上週間の取り組みを充実させる。 ・体育の授業や休み時間にボールを投げる時間を充実させる。

【目標達成のための具体的な取組内容】

① 各教科	
国語	・話の聞き方や発表の仕方の約束(明石スタンダード)の徹底を図る。 ・毎週２回程度の朝読書の時間や図書の時間では、物語または、小説の読書とし、まとまった文章に親しませる。 ・年間２回の読書旬間を実施し、親子読書に親しむ機会を設定する。 ・朝学習の時間に、タブレット端末やドリル等を活用し、漢字の練習に取り組ませ、基礎学力の定着を図る。 ・「話す、聞く」については本校の研究を通して、グループ構成を考えたり、話し合い自体の目標を明確にしたりして意図的な話し合いの場を設定する。
算数・数学	・習熟度別少人数指導や「放課後の個別指導」での補充学習を徹底させ、個に応じた指導を行う。 ・授業開始の３分間、計算練習を行い、基礎・基本の定着を図る。 ・自分の思考や友達の意見を取り入れたノートづくりができるように指導する。 ・朝学習の時間に、タブレット端末やドリル等を活用し、計算練習に取り組ませ、基礎学力の定着を図る。
社会	・事象との出合いを工夫し、問題解決的な学習過程を取り入れる。 ・実際に見学をしたり、タブレットを効果的に活用したりして、意欲的に調べ学習ができるように工夫する。 ・資料の読み取り方を丁寧に指導したり、資料を活用した話し合いを行ったりして、自分の考えや根拠を記述するノートづくりができるように指導する。
理科	・興味・関心をもって理科の学習に取り組めるような単元開発や環境整備を行う。 ・既習の実験・観察の過程や結果を根拠として、予想を立てたり、実験・観察の過程や結果から考察したことを記述したりするなど、思考を深めるノートづくりができるようにする。 ・単元の終末に、学んだことが活用できるように単元計画を工夫する。
英語	・ＡＬＴと事前に打ち合わせを行い、連携を図りながら授業を進めることができるようにする。 ・ＡＬＴの話などを聞く機会を増やし、リスニング力の向上できるように指導する。 ・児童のタブレットに入っているデジタル教科書を活用し、英語を聞く時間を増やす。
体育・保健体育	・マイスクールスポーツである短なわ跳びや長なわ跳びを継続的に取り組む。 ・体つくり運動で柔軟性を高めたり、ゲームの中でボールを投げる運動を意図的に行ったりするようにする。

②授業改善	
取組Ⅰ	・学習導入時の教材の提示方法や発問を工夫し、児童の「知りたい」「考えたい」という思いを引き出す主体的な授業づくりを目指す。 ・授業展開の中で小グループでの話し合いを適宜行い、さらに個の思考が深まる授業づくりを目指す。
取組Ⅱ	・自分の思考や友達の意見を取り入れたノートづくりができるように指導する。 ・授業場面に応じて、ノートとタブレット端末を効果的に使い分けて活用できるようにする。 ・タブレット端末や実物投影機等の ICT 機器を積極的に活用し、授業の効率化や知識の定着を図ることができるようにする。

③家庭との連携	
取組Ⅰ	・４月、７月、１２月に個人面談を実施し、児童の学習の状況（成績一覧がわかるプリントも使用）を把握したり伝えたりし、家庭との連携を図る。
取組Ⅱ	・学校便りや学年便り、保護者会等を活用し、家庭との連携を深めると共に、タブレット端末を活用し、Google の Class room やドリルパークでの家庭学習の配信を定期的に行い、家庭学習の習慣を身に付けさせる。

④体力向上	
取組Ⅰ	・体育的行事委員会や委員会活動を中心に長なわ跳びや短なわ跳びへの取り組みを計画し、年間を通して取り組むようにする。
取組Ⅱ	・体育学習発表会や体力向上週間に向けて学習カードや動画を作成し、児童一人一人がめあてをもち意欲的に取り組めるようにする。

【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
① 学力基盤	国語	・話の聞き方や発表の仕方の約束（明石スタンダード）の徹底を図ってきたことで、授業における自主的な学習態度が身に付いた。 ・朝の読書タイムや年２回の読書旬間の充実により、読書に親しむ習慣が身に付いている。 ・朝学習の時間に、タブレット端末やドリル等を活用し、漢字の練習に取り組ませ、基礎学力の定着を図ることができた。	・意図的な話し合いの場を設定し、活発な話し合いをすることはできたが、課題解決に向けたより深い話し合うために、自分の意見や考えを述べる機会を増やし、自信をつけさせる。また、話を最後まで聞いてから質問する習慣を付けさせる。話し合い等の活動を通して、自分の意見を積極的に表現する練習などを継続的に行い話す力と聞く力を向上させる。
	算数	・習熟度別少人数指導や「放課後の個別指導」での補充学習を徹底し、個に応じた指導を行うことで、効果が表れている。 ・授業開始の３分間、単元に関係する計算テストを継続して行うことにより、基本的な計算力が定着することができた。 ・朝学習の時間に、タブレット端末やドリル等を活用し、計算練習に取り組ませ、基礎学力の定着を図ることができた。	・文章問題を読み取り、読み取ったことを整理して線分図や図に表したり、根拠の説明をノートに記述したりそれを説明することには課題がある。ノートだけでなくタブレットを有効活用し、児童同士がお互いに意見を交換し、問題解決の過程や根拠を説明し合う活動を積極的に取り入れる。
	社会	・事象との出合いを工夫し、問題解決的な学習過程を取り入れたことで、意欲的に学習に取り組むことができた。 ・実際に学をしたり、タブレットを効果的に活用したりして調べ学習ができるように工夫することで、社会的事象に関心をもち、意欲的に学習に取り組むことができた。	・資料の読み取りや、資料を活用した話し合い、自分の考えや根拠を記述することが課題である。児童に資料を読む際の具体的な手順を丁寧に指導したり、児童が自分の考えや根拠を記述するノートを作る際に、モデルを提示して、どのように情報を整理し、記述するかがわかるようにしたりするなどの指導を行う。また、児童がノートを作成した後に、教師の振り返りや評価を行う。 ・資料を活用した話し合いを行う際には、タブレットを活用し、グループで情報を共有し、他の

			生徒のアイデアや視点を聞くことで、自分の考えを深めさせる。
	理科	・興味・関心をもって理科の学習に取り組めるような単元開発や、環境整備に努め、実験･観察を計画的かつ確実に行ってきた成果が見られる。 ・単元の終末に、学んだことが活用できるように単元計画を工夫することで、基本的な知識の定着につながった。	・実験･観察の過程や結果から考察したことを記述するなど、思考を深めるノートづくりを向上させることが課題である。児童がどのように考察を記述すべきかを示すために、学年や時期に応じて、生徒が自分の考察を書く際の手本となるようなモデルを提示するなど、丁寧に指導する ・考察を記述する際に、友達同士で話し合いを行い、他の児童の考えや観察結果を聞くことで、自分の考察を深められるようにする。
	英語	・ＡＬＴと事前に打ち合わせを行い、連携を図りながら授業を進めることができた。 ・ＡＬＴの話などを聞く機会や児童のタブレットに入っているデジタル教科書を活用し、英語を聞く時間を増やすことができリスニング向上につながった。	・英語で会話をするときに、自分のことを伝えることに集中し、相手の考えを聞くことができないことが課題である。今まで以上にコミュニケーションを重視した指導を行い、（例）ロールプレイを通じて、相手の発言に対して適切に反応する練習をするなど相手の考えを聞く力も育てる。 ・書く力がまだ十分に定着していない。授業の中で、４線を使って文字を書くことを意図的に取り入れる。
	体育・保健体育	・休み時間に積極的に身体を動かしていることや、マイスクールスポーツである短なわ跳びや長なわ跳びを継続的に取り組んだことで、巧緻性の高まりが感じられる。	・日頃から、体の柔軟性を高める運動場面やボールを投げる機会が少ない。体育の授業の準備運動や整理運動の時間に柔軟性を高めるストレッチや体操を取り入れ柔軟性を高める運動場面を増やしたり、体育の授業等で、ボールを投げる練習の機会を増やしたりして、体育の授業や学校の活動をより充実させる。
② 授業改善		・校内研究を通して、児童が自分の考えをもつことのできる学習過程・学習課題の工夫、児童同士の交流を深める伝え合いの場の工夫を行い、児童のコミュニケーション能力を上げることが	・年間を通じて、考えたことを分かりやすく表現するノートづくりには課題が残った。ノートのモデルを提示したり、書き方の型など示したりし、学年や時期

	できた。 ・年間を通じて、ICT 機器を活用し児童の主体的、対話的で深い学びを促す授業づくりを実践することができた。	に応じた丁寧な指導を行う。また、ノートだけでなくタブレットも有効活用していき、表現力の育成を図る。 ・ICT 機器を活用した授業を展開できているが、より効果的な授業にするために特にグループでの話し合いや協働学習で、タブレットを活用した授業を行う。
③ 家庭との連携	・４月、７月、１２月に個人面談を実施し、児童の学習の状況（成績一覧がわかるプリントも使用）を把握したり伝えたりし、家庭との連携を図ることができた。 ・学校便りや学年便り、保護者会等を活用し、家庭との連携を深めると共に、タブレット端末を活用し、Google の Class room やドリルパークでの家庭学習の配信を定期的に行い、家庭学習の習慣を身に付けさせることができた。 ・少しずつ家庭や地域に開かれた学校運営となった。体育学習発表会、学校公開、展覧会など公開もできた。 ・学校や児童の様子を知ってもらうために、児童の学習の様子や生活がわかるような写真とともに学校からのホームページの情報発信を積極的に行うことができた。	・タブレットでの学校評価アンケートの回収率が低い。アンケート実施方法についてよりよい方策を検討する。学校評価を教育活動に生かしていくためにも、保護者の方に学校評価アンケートの周知に努め協力いただけるようにする。 ・学校評価では、保護者や児童からも概ね高い評価であったが、Google Classroom や学校ホームページ等を活用し、さらに保護者の方に理解していただけるよう、教育活動の積極的な開放や情報発信に努めていく。
④ 体力向上	・体育的行事委員会や委員会活動を中心に長なわ跳びや短なわ跳びへの取り組みを計画し、年間を通して取り組むことができた。 ・体育学習発表会や体力向上週間に向けて学習カードや動画を作成し、児童一人一人がめあてをもち意欲的に取り組むことができた。	・休み時間や体育の授業で、柔軟性を高める運動やボールを投げる機会を増やし、体育の授業や学校の活動をより充実させる。